

四季の風だより

残暑号 平成 24 年 8 月 15 日
田中せいこ社会保険労務士事務所

今季号の
お話し

- 蟻に噛まれて
- 戦争とザリガニ
- 夏山登山
- 千羽鶴の送り火

残暑お見舞い申し上げます！

お盆も終わり、こよみの上ではもう秋です。でも、まだまだ暑い！気持ち的には、夏は終わってませんね。♪夏が来れば想い出すう〜♪と、歌にもあるように、夏の思い出は皆さんの心の引き出しに、沢山詰まっているのではないのでしょうか？

今回の「四季の風だより」は、夏休みの思い出について書いてみました。



蟻に噛まれて



先日庭の草取りをしていると、手首のあたりに何やらチクチクと痛みを感じました。袖をまくって見ると、軍手から無数の蟻が這い上って、手首から肘にかけて必死に噛みついているのでした。草を抜く時に、蟻の巣を壊していたんです。

私は小学 4 年生の頃の、夏休みを思い出しました。引っ越したばかりで友達もいない私は、一人で庭の蟻の巣がどこまで続いているのか知りたくて、掘ってみることにしました。

掘り進んでいくと、沢山の黒い蟻が巣から出てきました。右往左往もう大パニックといった様子です。更に掘っていくと、白い細長い卵が出てきました。蟻たちは、その卵を啜えて、散り散りに大急ぎで逃げ去ります。

私は一匹の卵を啜えた蟻を捕まえて、蟻から卵を引き離そうとしました。でも蟻は、なかなか卵を離そうとしません。とうとう

蟻の頭は卵を啜えたまま、胴体からちぎれてしまったのでした。

その時の私は茫然として、後悔とも罪悪感とも違う、何か大きな自然の摂理みたいなものを感じていたと思います。

蟻の持つ、子孫を守ろうとする防衛本能。私たち人間も、子孫に負の遺産を残す事のないよう、原発問題や年金問題に当たらなければなりませんね。

蟻に噛まれた腕の、赤い腫れを掻きながら、そんな事を考えさせられました。



戦争とザリガニ



私が子供の頃の夏休みは、毎日朝から夕方まで外で遊んでいました。外に出れば遊び相手には、事欠きません。特に、昆虫や水中の動物が大好きで、近くの田んぼの小川で、ザリガニ捕りをするのに夢中になっていました。

当時の関東地方では、日本のザリガニといえば、茶色くて小ぶりな地味な日本ザリガニがほとんどで、現在圧倒的に多く生息しているアメリカザリガニは少数派だったのです。真っ赤なアメリカザリガニを、私たちは「マッカチ」と呼んでいて、マッカチを見つくと「おおっ！マッカチ発見！」と大騒ぎでした。

子供たちの間では、マッカチはアメリカから来たザリガニで、猛毒があるという事になっていました。日本ザリガニに比べて、見た目も大きく強そうで、私は心の片隅で

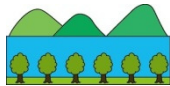
敵国のザリガニとっていたような気がします。

戦争は私が生まれる 20 年以上前に終わっていましたが、昭和 40 年代は「戦後」という言葉がやたら多く使われていたように思います。歌謡曲でも「戦争を知らない子供たち」という曲が大ヒットしていましたから、戦争は知らなくても、その悲劇は想像を超えるものだったのだろうと、子供心に感じていました。少なくとも、親は戦争を知っている世代でした。

これから生まれてくる子供は、祖父母でさえ戦争を知らないんですよ。知ってはいけない事ではありますが・・・



夏山登山

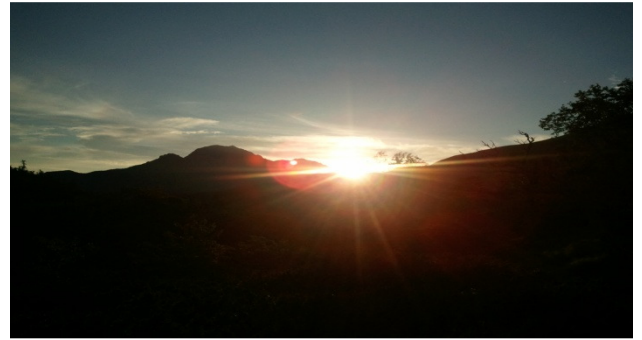


今年の夏山は、南アルプスの小河内岳に登ってきました。中央高速松川 IC から大鹿村に行き、鳥倉林道を歩いて 40 分程で登山口です。そこから初日のゴールの三伏峠小屋までは、3 時間の登山です。

登山口はすでに標高 1,800 メートルの高さにあるためとても涼しく、そこから三伏峠小屋まで約 800 メートル登るのも、地元の本宮山に登るよりは楽に感じます。

天気は曇り。アルプスの雄大な眺望はのぞめず、昼過ぎに三伏峠小屋に到着してからはガスも出てきて、その日のうちに小河内岳に登頂するのを諦め、小屋でのんびりと過ごしました。夕飯は 4 時半で消灯は 8 時ですから、明日の朝は日の出を拝もうと、早めに就寝しました。今回は、一人一枚の布団で寝たので、爆睡しました。去年の涸沢小屋では、一枚の布団に知らないおじさんと三人で寝たので、とても窮屈でした。

そして翌朝、快晴です。ここからは私の下手な文章より、写真を見て下さいね。



塩見岳から覗く朝日です。



稜線を向こうの向こうの山まで歩きます。今年も楽しい山の思い出ができて、本当にありがたやありがたや・・・



千羽鶴の送り火



我が家には、20 年くらい前に作られた千羽鶴が、カーテンレールにぶら下がっています。教員だった夫の父が入院した時に、中部小学校の教え子さんたちが、作ってくれたものです。

夫の父が亡くなって 13 年間、ずっと鶴はそのままでしたが、最近では鶴を繋いでいる糸が弱り、ところどころ切れて、鶴が落ちてしまいます。今年は義父の 13 回忌ですし、お盆に帰って来た義父の精霊に、鶴を持って行ってもらうことにし、送り火のタイマツで千羽鶴を燃やしました。

今年もお盆が終わりました。では、一句。

送り火や終えてしばらく夜の風

最後までお読みいただき、ありがとうございました。